

# 県立多治見病院 緩和ケアチーム通信



発行：県立多治見病院 緩和ケアチーム 2015年 8月号 VOL.53



文責：志津匡人・兼松友紀 編集：櫻田亜矢子

こんにちは、緩和ケアチーム身体症状担当の呼吸器内科、志津匡人です。今回は緩和的化学療法について、紹介します。一般的に化学療法は治癒あるいは再発予防目的以外での使用は広義に緩和的化学療法と言われることがありますが、今回は疼痛など不快な症状の軽減を意図して行われる化学療法に絞りたいと思います。

抗癌剤は癌細胞に対しては薬、正常細胞にとっては毒以外の何物でもない薬剤であり、効果と副作用のいずれもが現れる薬剤です。従来抗癌剤の使用は生存期間の延長や抗腫瘍効果を目的として効く、効かないを判定され、症状緩和についての評価はあまりされていなかったのですが、腫瘍の見た目が小さくならずとも、症状緩和が得られることはあります。そのため客観的な評価が難しいため、あくまで自分の状態について主治医としっかり話し合う必要がある治療になります。ただこのような目的の化学療法が全員にできるわけではなく、確立された治療法でもないため、あくまで主治医の裁量に委ねられるのが現状です。もしこのような治療が可能かどうかなどの相談があれば、緩和ケアチームに相談していたければ、身体症状担当医として説明など、対応させていただきたいと考えています。



緩和ケアチーム薬剤師の兼松です。今回は、新たに登場したオピオイド鎮痛薬タペンタ錠<sup>®</sup>（成分名：タペンタドール塩酸塩）について紹介します。

タペンタ錠<sup>®</sup>は、 $\mu$  オピオイド受容体への作用とノルアドレナリン再取り込み阻害作用の2つの作用があり、セロトニン再取り込み阻害作用を弱めた薬剤です。2つの作用による相乗効果によって他の強オピオイドと同等の鎮痛効果を発揮します。また代謝物に活性がないので、遺伝的な要因や代謝、薬物相互作用による影響を受けにくいとされています。主な副作用は、便秘、悪心、嘔吐、傾眠がありますが、タペンタ錠<sup>®</sup>は、 $\mu$  オピオイド受容体活性が他の強オピオイドと比較して弱いため、 $\mu$  オピオイド受容体を介した便秘、悪心、嘔吐などの消化器系副作用や眠気などの副作用が弱い傾向にあるようです。

タペンタ錠<sup>®</sup>は、神経障害性疼痛をあわせもった痛みや便秘など消化器系副作用のリスクを下げたい場合などに選択肢の1つとしていただくとよいのではないのでしょうか。



## 第3回 緩和ケア勉強会を行いました。

8月20日に第3回緩和ケア勉強会を行いました。当院緩和ケア病棟を退院後、訪問診療・訪問看護を受けながら、家族の不在時にはデイサービスやナーシングデイを利用し、介護力不足をあらゆる施設で支援した事例でした。多施設が密に連携し看取りまで支えられ、患者さんやご家族は大変心強かったことでしょう。



## 9月の予定

### 第1回 緩和ケア講演会

日時：平成27年9月17日(木)  
18:00~19:30

場所：中央診療棟3階 講堂

内容：『家族療法』

講師：きたおわり在宅医療クリニック  
岡 聡先生

ご参加お待ち  
しております☆